

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度第2回ひろさき教育創生市民会議
開 催 年 月 日	令和元年10月7日(月)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時30分 から 午後4時35分 まで
開 催 場 所	中央公民館岩木館2階 大ホール(弘前市大字賀田一丁目18番地3)
座 長 の 氏 名	国立大学法人弘前大学 教育学部長 戸塚 学
出 席 者	<p>座長 戸塚 学 委員 相馬 隆子 委員 境 江利子 委員 安川 由貴子 委員 石川 かおる 委員 小山内 修 委員 生島 美和 委員 川越 俊昭 委員 秋元 彩香 委員 工藤 信敬 委員 高山 洋子 委員 藤田 俊彦 委員 岩渕 理 委員 大湯 恵津子 委員 佐藤 優輝 委員 柿崎 良樹 委員 三上 美知子 委員 宮地 善道 委員 吉原 則幸 委員 小山田 允紀 委員 高橋 信進 委員 八木橋 旬一 委員 佐藤 義光 委員 成田 安男 委員 黒木 和実</p>
欠 席 者	<p>委員 鈴木 雅博 委員 福田 悟 委員 浅原 奈苗 委員 吉川 満 委員 辻 光隆</p>
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	<p>教 育 長 吉田 健 教 育 部 長 鳴海 誠 理事兼学校教育推進監 奈良岡 淳 教育総務課長 中村 工 学校整備課長 三上 善仁 学務健康課長 菅野 洋 学校指導課長 横山 晴彦 教育センター所長 三上 文章 生涯学習課長 柳田 尚美 文化財課長 小山内 一仁 博物館長兼高岡の森弘前藩歴史館長 成田 正彦</p>
会 議 の 議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・組織会 ・議事(グループ討議)「地域住民の学校への関わりについて」 「公民館活動の活性化について」 「市の文化財の活用について」
会 議 資 料 の 名 称	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろさき教育創生市民会議の概要 ・ひろさき教育創生市民会議運営規則
会 議 内 容 (発言者、発言内容、 審議経過、結論等)	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員紹介 3 教育長挨拶 4 会議について

5 組織会

- ① 座長選出
- ② 座長代理の指名
- ③ 座長挨拶

6 議事(グループ討議)

討議「地域住民の学校への関わりについて」

「公民館活動の活性化について」

「市の文化財の活用について」

7 閉会

【内 容】(概要)

3 教育長あいさつ

本日は御多用のところ、「ひろさき教育創生市民会議」に御出席いただき、またこの度の委員の委嘱にあたっては快く承諾いただき重ねて御礼申し上げます。

さて、教育委員会では本年度も「みんなが学ぶ」「みんなと学ぶ」「みんなに学ぶ」をスローガンとし教育政策の方針として事業運営に取り組んでいる。しかしながら教育を取り巻く環境が大きく変化している中、これまで以上に学校、家庭、地域、行政が協働し、子供たちが心豊かに逞しく社会を生きる力を育むことができるよう、教育環境を整えていく必要があると考えている。このことから、教育委員会では地域と共にある学校の実現に向けて小中一貫教育および地域学校協働システムを柱とした教育自立圏の構築とその充実に向けて取り組みを進めているところである。地域の歴史や風土を活かし、特色ある教育活動を展開していくためにはさまざまな形で地域活動に関わる皆様方の御協力が不可欠である。本日の会議では3つのテーマを設けている。1つは地域住民の学校への関わりについて、2つ目は公民館活動の活性化について、3つ目は市の文化財の活用について。それぞれグループごとに協議していただく。特に到達地点の設定はしていないので、委員のみなさまには日頃お感じになっていること、お考えになっていること等、忌憚のないご意見を願いたい。

結びに本日の会議が弘前市の教育の充実に向けて実りあるものとなることを期待して、挨拶とする。

4 会議について

(生涯学習課長)

ひろさき教育創生市民会議は心豊かで逞しく生き抜く力を子どもたちに育むために、将来を見据えた教育のあり方、人財の育成について関係する機関、団体が情報や意見を交換し、協議することを目的に平成25年度に設立されたもので、会議は毎年度3回程度開催している。会議の

もう一つの役割として国が法令で定めるいじめ問題対策連絡協議会この機能も併せもっており、いじめや虐待の未然防止に関し関係する機関団体の連携をはかり、話し合いにより幅広く意見や助言をもらいながら市の取組や市民運動に活かすことも想定している。これまでの概要成果は、平成25年度～平成27年度まではより良い教育環境の確保について、いじめや虐待の防止に関する取組みについて、少子化対策、少子化に対応した学校のありかたはどうか、地域と共にある学校について等のテーマを協議していただき、委員からの意見については主に平成27年8月に策定された弘前市立小・中学校教育改革に関する基本方針を作っこちらに大きく反映させていただいている。その後平成27年度第2回以降からは郷土に学び夢と志を育むにはどうすればいいか、ひろさき卍学の構築について、ひろさき卍学テキストについて、コミュニティの活性化、文化財の魅力向上等をテーマに討議いただいた。特にひろさき卍学テキストの作成や意見に関しては数回にわたってたくさんのご意見をいただき活用させていただいたところである。また、いじめ防止に関してはいじめや虐待のないまちづくりに関する事に関し協議いただくなど、市の取組状況を定期的に報告し委員からのご意見を頂いている。このように当会議では市の取組や方向性、取組の見直し等その時々に応じたテーマを設定している。教育委員会としては、さまざまな分野の方々から意見を頂戴することができる貴重な機会と考えており、今後とも御協力をよろしく願いたい。

本会議の運営についての規則を定めた座長の互選等規定を、この後の組織会に関連してご覧いただきたい。

5 組織会

組織会において、座長が戸塚学委員、座長代理が大湯恵津子委員に決定した。

6 議事(グループ討議)

「地域住民の学校への関わりについて」(A・Bグループ)

「公民館活動の活性化について」(Cグループ)

「市の文化財の活用について」(Dグループ)

座長より、グループ討議の進め方について説明

○グループ討議

○各グループからの報告

(Aグループ)

Aグループは「学校と地域のつながり」ということで、「授業」「行事」というカテゴリーと「放課後」というカテゴリー、「休日」というカテゴリーに分けてみた。

「授業」、「行事」でいくと地域のボランティアが例えばミシンの使い方、水泳やスキーの行事にサポートとして入ったり、登下校の見守りなどが現在も行われている。「放課後」でいくとスポーツ少年団など、少ないがサポートがある。改善点としては例えばなかよし会が共働きでないと活用できないということで、通わせたいが通わせられないという現状があるので改善が必要かと思う。新しい案としてはおじいちゃん、おばあちゃんの散歩を子どもの下校時にしてもらって、登下校の見守りとするという意見も出た。あとは学校の放課後を世代間の交流の場として空き教室を使って世代間交流をする。また、放課後に関わらず日中小さい子をおじいちゃん、おばあちゃん世代のボランティアの人達が子どもを見てくれる、その間に子育て世代の方たちが違う授業のサポートに入るとかそういう関わりもできるのではという話がでた。「休日」でいくと参加人数はかなり減っているが、子ども会の行事、夏休みのラジオ体操、地区の運動会を開いたりして地域と学校とのつながりは弱くなってきているのかもしれないが、さまざまな関わりもある。ただ、今まででも言われてきたことではあると思うが、学校と地域の窓口があまり明確ではない。教頭先生が中心にやってこられたようだが、異動等で継続的にやっていくというのが難しいと思うので、地域のコーディネーターが中心となって地域と学校の連携の窓口が明確になっていると、今現在地域で埋もれているさまざまな技術を持った方々を学校に引き込んで色々なスキルを子ども達に提供できるのではないかという話になった。ボランティアの方々の高齢化が進んでいるということで、次の世代に引き継いでいくことも重要だという話になった。共働きの世帯が多いので、その辺は課題だと、高齢化が進んでいる中で次の世代に活動をつないでいくこと、地域のパイプ役が明確でないというのが現状、課題なのかなという話になった。新しい案が出たわけではないが、現状の確認ということで以上である。

(Bグループ)

Bグループでは「地域住民の学校への関わりについて」話し合った。それについて感じていることを付箋に書いていただいた。大人との関わり、教師や親以外の大人と子どもたちが関わる機会や話す機会を増やすことでこれからの人生に生かせるものになるのではないか。学校の行事をどのように知ることができるか、町会や地域住民が協力できることってどんなことだろう、お年寄りとの関わりをもっともっと増やしたいと思っている人がいるが学校の情報が来なくて行けないなど、知る機会を増やすにはどうしたらいいか。

本当はもっと関わりたい人や埋もれた人材をどのように周知していくかを話し合った。町会の老人会の方々に話したり、退職した人を積極的に活用したり、声掛け、広報して、窓口を設ける人材の情報提供を町会にお願いする中でイベントというのも出た。お年寄りは毎日どこか顔を出す場所で顔を出したらポイントをもらえるポイントカード制にすると

か、若い人も何かしらボランティア活動に参加したら、ポイントがもらえてポイントが貯まればどこかの公共施設が使えるなどいいかなと話をしていたら、ボランティアポイントというのをやっているところもある話を聞いて、そういうのを市の中で企画していき一部の町会だけでなく、全部が一緒になってやっていくことが大切なのではないかという話になった。

(Cグループ)

「公民館活動の活性化について」ということで、最初から公民館のことを熟知して話し合うことはできないので、まずは疑問点から時間をかけていった。その中で例えば千年公民館だよりなどを見ながら進めた。千年公民館だよりを見ただけでも行事がたくさんあって、3つのサークルでたくさん人数がいて行われている様子を聞くと活性化を考えなくても成立しているようなところもあった。全体像としては、活性化する必要があるのかなというところでようやく書き始めた。例えば利用者は大人が利用する部分なのか子どもが利用する為の事で考えればいいのか不透明でなかなかわかりづらい、そもそも公民館という場所が公民館としてこれからも必要なのかを考える必要があるのかもしれない。そこには交流館という名前だったりコミュニティ施設という名前も登場してきたりさまざま公民館という役目の部分が似たような名前だったり新しく出てきたり、認定を受けた方が特に利用するわけだが、デイサービスに移行していたり、デイサービスの会社等が集会所の料金を払い利用しランチの提供をしている。これから先のことを考えるとそれも集会所を利用する仕方として成立している例かなと感じている。

今後公民館がどうなっていけばいいのかというところだが、例えば公民館まつりや、弘前では宵宮が盛んにあるなど「祭り」はこうなってほしいという話も、担う人などを考えると果たしてどうなのか疑問が残る。

公民館の1ヶ月単位カレンダーがわかりにくいのでイベントカレンダーが市のホームページにも公開され、せめて公民館の利用がしやすくなるような方向性でという話題が出た。

果たして公民館そのものがどうなのかなという状況の中で、老朽化になっているから建て替えをしていくというようになっていくのか。そういう中でいい例としては、泉野多目的コミュニティ施設、私も利用したことがあるが、ホールは研修会で100名入ることができる。何よりも駐車場が100人来てでも対応可能というところがあった。多機能だなど感じたのは研修会で団体が利用している中で、15時以降近隣の小学校の子供たちが学童としてそこを利用する形も取れている、学童が利用しているから研修会利用できないということではなくて研修会も利用できるような形で成立していたなと感じている。これから新たに公民館がいい形で活用されて行くためにはモデルケースやそういうところをひとつ考えつつ、とにかく駐車場などの部分が充実した形でないと上手い活用にはつながっていかない。町会単位で市民が色々な場所に移動して使っ

ていく活性化の部分の施設と考えた場合には必ずそういう条件が伴うのかなと感じた。最後に良いイメージ、県外から転居してきた人にとって公民館主催の行事は非常に参加しやすい、公民館が開催してくれている安心感が非常に良いイメージだと思った。

(Dグループ)

「市の文化財の活用について」発表する。文化財とは何か、文化財の必要性。弘前市には城下町ということもあって文化財が非常に多くて、形のあるもの、無いもの非常に多いが、まずどうやって残していくのが話に挙がった。具体的には東照宮であったり忍者屋敷であったり残していくにはお金がかかる、文化財を残すのには後継者不足。地域の人が意外と分かっているようで分かっていない、関心が薄いのではないか。まず財源だが、観光を充実させてお金を使ってもらおう。イベントと関連づけて文化財に触れてもらうことも必要なのかなという意見も出た。その際に教育としてどのように伝えていくかという話がでて、小・中学校の遠足のコースを作ってみてはどうか、文化財に触れてもらえるような遠足のモデルコース、こども会で文化財に触れてもらえるような行事などを企画してもらおう、また高校生、大学生が文化財を知らないという意見が出て、関心を持ってもらえるような工夫が必要なのではないか、大人にももっと関心をもてるような工夫が必要なのではないかという意見が出た。

(座長)

質問、ご意見はあるか。

(委員)

要望だが、日本語教育について学校と民間で若干遅れがみられる話をした。学校では教育支援という形で、日本語教育をされている教員が配置されていると思うが十分機能していないのではないかという声を若干聞くのでその事をもう一度チェックしてもらいたいのと、民間の日本語教育ボランティアによる機会が少なく、行政で民間をバックアップできるようなそういう支援をできればありがたい。

(座長)

要望ということで教育委員会のほうでご検討をいただければと思う。

(座長まとめ)

今日、冒頭で吉田教育長から結論は出さなくてもいいというすごく貴重な発言をいただいたなと思っていて。すべての事に対して結論を出すというのはなかなか難しいと思う。その中でグループA、Bに関しては「地域住民と学校の関わりについて」お話をしていただいた。グループAの方は、「常時」、「放課後」、「休日」と場面別に整理しながら地域住民と学校がどのように関わっていくかという議論をされていて、その中で実際出来ることを探して、出てきても窓口が不足しているのではないか、コーディネートしてくれる人が機能しているか、そういうカテゴリー別

に整理しながらこういったところを教育委員会としてサポートしていけばいいかというご提案をいただいた。

それから、グループBのほうからは、関わりたい人や、関われる人がいるのだが実際どういうふうに関わっていけばいいかというところで、老人会、退職者や町会等色々出てきて、やはりその中で窓口の話が出てきた。

「公民館の活性化について」これは大きな題目で苦勞されたと思うが、疑問点からスタートして公民館は大人が対象なのか、子どもが対象なのか、公民館の必要性とは何か、本質的な話をされていた。その中で刻々と変わる時代に対応した公民館の活性化を考えていかなければならないのではないかと。駐車場などのインフラの整備等も考えながら確かに各市町村にあるが果たしてそれが使えるかどうか、集約し機能別に時代に対応した公民館の活性化をご提案していただいたように思う。

それからグループDは文化財の活用、「文化財とは何か」「どうやって残すのか」という疑問点のところからスタートして観光、教育という観点からこの後どのように活用していこうかというところで、文化財というのは弘前市では観光、教育というカテゴリーで考えていったらいいのではないかとご提案をいただいたと思う。

私も大急ぎでまとめさせていただいたが、今回のところで2点感じるころがあった。まず1つは学校教育というのが少しある部分で変わっていこうとしている。地域とともに学校教育を行っていく。社会にひらかれた教育というテーマをもとに変わっていくのだがこれは学校側からすると地域と連携して地域の教育力を活用して子ども達が将来地域で活躍できるようなよりよい教育を展開していく、一方地域から見ると地域の教育力を学校教育に注いで将来の地域の担い手の育成を学校と一緒にやっていくある部分ではウィンウィン（WIN-WIN）の関係になっていく、これから学校教育はそういうふうに地域と学校がウィンウィンの関係になるようなものではないか。今社会で言われている持続可能な開発目標（SDGs）だが少子高齢化の中で持続可能な社会をデザインしていくところに繋がっていくといった視点が必要になっていく。一方で公民館の方で転居者が公民館の活動をすごく参加しやすいという話になったのだが、今、ラグビーのワールドカップをやっているが、よく言われるのが31分の15、31人の選手のうちの15人は外国籍だ。かつてこういうことは考えられなかったが、日本代表で戦う、おそらくこれは何十年後かの日本の形、日本の社会というのをイメージできるのかなと思う。そういった中で公民館も色々な可能性があるのかなと思う。今日、このように弘前市の各セクションでリーダーとして活躍している先生方がそれぞれの課題を違う方面から話し合った事はおそらく皆さんの活動の中で弘前市の学校教育、生涯教育こういうところに大きく影響するようなみなさんの活動だったのではないかなと思う。

7 閉会

(令和元年度第3回会議の日程について連絡。)